



情報技術を活用して “みんなにやさしいデザイン”を

情報システム学部 情報システム学科
 片山 徹也 教授

情報システム学科では、情報処理技術者として必要な専門スキルに加え、デザイン分野についても学ぶことができます。本研究室では、指導教員が色彩学やグラフィックデザインに関する授業科目を担当していることもあり、デザイン分野に興味・関心を持つ学生たちが集まっています。卒業論文のテーマは、コンビニATMのタッチパネル画面におけるボタンやキーボードの配色、ECサイトやモバイルサイトのレイアウトデザインなど、多岐にわたります。また、2026年度からは科研費課題として、わかりやすい薬のピクトグラムに関するデザイン研究も開始しています。

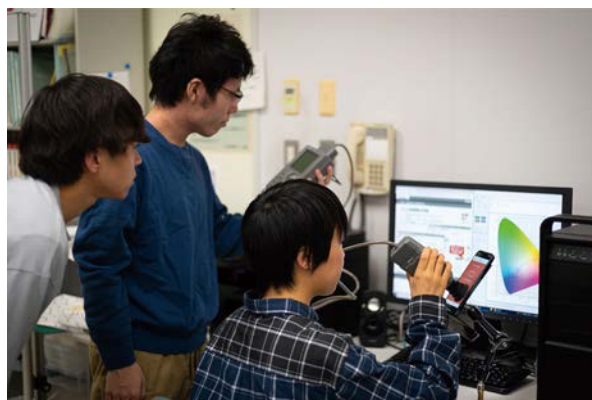
本研究室では、グラフィックデザインを構成する色・文字・形・レイアウトなどの要素や、モバイル端末、タッチパネル、コンピュータ画面などを通じて提供される情報に着目しています。そして、誰もが「わかりやすい」「使いやすい」と感じられる情報デザインのあり方について、人間中心設計(Human Centered Design)の考え方に基づいて研究しています。

日々進化する情報技術は、便利さを高めるためだけのものではありません。ユニバーサルデザインやアクセシブルデザインの視点から、年齢や身体的・認知的な特性にかかわらず、多くの人々が安心して情報を利用できる環境を整えることも重要です。情報技術を、人々の生活の質や心の豊かさを高めるために活用する視点は、今後ますます求められると考えられます。

また、本研究室の学生たちは、大学で学んだ知識やスキルを生かし、地域や行政の方々との協働活動にも積極的に取り組んでいます。これまでに、長崎市まちぶらプロジェクト「歳時栗名月十三夜のつどい」や、市民団体によるイベント「ながさき・愛の映画祭」のチラシ・ポスター制作などに参画してきました。大学内での学びと、大学外でのさまざまな体験を通じて、情報技術を活用した“みんなにやさしいデザイン”の実現を目指し、日々の研究や活動に取り組んでいます。



HCD(人間中心設計)による情報デザインの諸要素



スマートフォン画面の色度測定実験